

環境共生都市のまちづくりを進める柏の葉キャンパス地区

## 低炭素モデル都市として APEC のコンペティションで入賞

柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）を拠点に、公・民・学が連携して「環境共生都市」の実現を目指す柏の葉キャンパス地区は、アジア太平洋経済協力（APEC）「2015 ESCI ベスト・プラクティス・アワード」の「ローカーボンモデルタウン」部門にて銀賞を受賞しました。

「ESCI（エネルギー・スマートコミュニティ・イニシアティブ）」では、APEC の加盟国や地域が連携し、効率的な交通、省エネビル、スマートグリッド、ローカーボンモデルタウンなどの分野で、事例やノウハウの共有を進めています。なかでも各分野で優れた取り組みを実践する組織について、毎年「ESCI ベスト・プラクティス・アワード」として表彰しています。

柏の葉キャンパス地区では、市民と行政、企業、大学など公・民・学が連携して組織する UDCK が拠点となり、環境やエネルギー問題に応えられる街を目指す「環境共生都市」、日本経済の発展と活性化に欠かせない新産業の創出を目指す「新産業創造都市」、超高齢化社会に対応した街を目指す「健康長寿都市」という3テーマを掲げています。

今回は、環境共生都市として進めている低炭素化への総合的な取り組みが評価され、受賞となりました。2014年7月に街びらきをした柏の葉キャンパス駅前地区では、街区を超えた電力融通などにより街全体でエネルギー利用の最適化を進める「エリアエネルギー管理システム（AEMS）」や、家庭におけるエネルギー使用の見える化を行い、住民の環境意識を高める「ホームエネルギー管理システム（HEMS）」といった先端技術を導入しています。また、マンションなどでは自然の熱や空気を活かして地球への負担を減らすサステナブルデザインの採用や、太陽光・風力・地下水・雨水など再生可能エネルギーの利用のほか、環境に配慮した次世代交通システムの研究や実証実験を行っています。

表彰式の様子（アメリカ合衆国ホノルル市、現地時間 2015 年 12 月 15 日）



【本件に関する報道関係のお問い合わせ先】

柏の葉アーバンデザインセンター 担当：三牧・坂本 TEL：04-7140-9686